

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宮城学院女子大学
設置者名	学校法人宮城学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	夜・通信	4	0	22	26	13	
教育学部	教育学科 幼児教育専攻	夜・通信		4	10	18	13	
	教育学科 児童教育専攻	夜・通信		4	17	25	13	
	教育学科 健康教育専攻	夜・通信		4	14	22	13	
生活科学部	食品栄養学科	夜・通信	2	3	22	27	13	
	生活文化デザイン学科	夜・通信		3	18	23	13	
学芸学部	日本文学科	夜・通信	4	4	14	22	13	
	英語文化コミュニケーション学科 ※1	夜・通信		4	12	20	13	
	英文学科 ※2	夜・通信		4	12	20	13	
	人間文化学科	夜・通信		4	8	16	13	
	心理行動科学科	夜・通信		4	16	24	13	
	音楽科	夜・通信		4	13	21	13	
(備考)								
※1 学芸学部英語文化コミュニケーション学科 2026年4月開設								
※2 学芸学部英文学科 2026年4月募集停止								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.mgu.ac.jp/about/disclosure/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宮城学院女子大学
設置者名	学校法人宮城学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人宮城学院ホームページ 情報公開 役員（理事） https://www.mgu.ac.jp/home/disclosure/index.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	同窓会会長	2025. 5. 27 ～選任後 4 年以内に終 了する会計 年度のうち 最終のもの に関する定 時評議員会 の終結の時 まで	組織運営体制への チェック機能
非常勤	牧師		組織運営体制への チェック機能
非常勤	弁護士		組織運営体制への チェック機能
非常勤	大学教授		組織運営体制への チェック機能
非常勤	株式会社代表取締役社 長		組織運営体制への チェック機能
非常勤	株式会社代表取締役		組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮城学院女子大学
設置者名	学校法人宮城学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 毎年、授業概要、到達目標、授業計画、評価方法・基準、準備学習等の記載事項や新規変更点について、留意点や記載例を掲載したシラバス作成要領を作成し、全教員に配布している。 各教員が作成したシラバスは、教務センター委員や資格課程委員会の確認修正作業を経て、ウェブで公表している。シラバスの作成は、例年12月から開始し、ウェブ公開は翌年3月に行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	宮城学院女子大学 UNIVERSAL PASSPORT https://unipa.mgu.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各学生の学修成果をシラバス記載の成績評価方法に基づき、試験結果、平常点等を加味し各教員が評価する。また、教員の評価が適切であることを学修支援システムを通して確認できるように、システム運用を行っている。 学生は、単位を認定するために実施される試験を必ず受けなければならない。履修登録を正しく行っていない科目、授業を1/3以上欠席した場合などは試験を受験できない。 また、成績発表後に、シラバスに記載された評価方法・基準等を確認し照らし合わせた結果、評価に疑問がある場合は、指定期間内に担当教員に評価の確認ができる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 2016年度よりGPA制度を運用し、学生へ配布する学生便覧に掲載及びウェブ公開をしている。GPAの算出は不合格科目や履修放棄科目も対象科目としており、学生にはしっかりと履修計画を立てることを周知し、履修指導に活用している。 GPAの算出方法は100～90点(評価S)を4.0、89～80点(評価A)を3.0、79～70点(評価B)を2.0、69～60点(評価C)を1.0、59点以下(評価不可又は放棄)を0.0とし、$GPA = (4.0 \times S \text{ 修得単位数} + 3.0 \times A \text{ 修得単位数} + 2.0 \times B \text{ 修得単位数} + 1.0 \times C \text{ 修得単位数}) / \text{総履修得単位数 (不可・放棄の科目の単位数を含む)}$としている。</p>	

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>宮城学院女子大学ホームページ 「2026 年度学生便覧」試験および成績評価 (33 ページ) https://www.mgu.ac.jp/miyagaku_cms/wp-content/uploads/2026/04/jugyo_seiseki2026.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定・学位授与方針は、学部学科別に定め、ウェブで公表している。認定は、ポリシーに沿って定める履修方法に従って卒業単位 124 単位以上が修得されているかどうかを各学科で判定した後、教務センター会議での審議及び判定、教授会の議を経て学長が認定する手続きとしている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>宮城学院女子大学ホームページ ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) https://www.mgu.ac.jp/about/policy/diplome/ 「2026 年度学生便覧」学修計画 (20 ページ) https://www.mgu.ac.jp/miyagaku_cms/wp-content/uploads/2026/04/gakushukeikaku2026.pdf 「2026 年度学生便覧」学則 (182 ページ) https://www.mgu.ac.jp/miyagaku_cms/wp-content/uploads/2026/04/gakusoku2026.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宮城学院女子大学
設置者名	学校法人宮城学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人宮城学院ホームページ情報公開<財務諸表> https://www.mgu.ac.jp/home/disclosure/index.html
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 宮城学院女子大学ホームページ 大学評価 https://www.mgu.ac.jp/about/juaa/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代ビジネス学部
教育研究上の目的 (公表方法: 宮城学院女子大学ホームページ 学部、学科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的 https://www.mgu.ac.jp/about/disclosure/purpose/)
(概要) 現代ビジネス学部は、ビジネスに関する基礎的な知識と実務的な能力を身につけ、これらをビジネス実践の場面に応用する能力を培うことにより、ビジネスの諸活動を主体的かつ倫理観をもって行う態度と地域社会の発展に貢献できる創造力と実践力を有する人材を養成することを教育研究上の目的としています。 現代ビジネス学部現代ビジネス学科では、ビジネス学分野に関する総合的な教育研究を通して、これらの領域の基本的な知識や実践力を身に付け、ビジネス学の理論と実践の関係について理解し、総合的に実践する応用能力の修得に向けた教育を行います。このような応用能力を有した幅広い職業人の育成を行うことにより、地域社会への貢献を目指すことを教育研究上の目的としています。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: 宮城学院女子大学ホームページ ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針) https://www.mgu.ac.jp/about/policy/diplome/)
(概要) 現代ビジネス学科では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。 1. 自己受容 自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。 2. 共生 社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。 3. 女性のキャリア 自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。 4. リベラルアーツ 幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。 5. 知識・技能 ビジネス・パーソンに必要とされる知識と技能を習得している。 6. 実践能力 ビジネス・パーソンとして活躍するために必要となる実践能力を身に付けている。 7. 知的能力 ビジネス・パーソンとして活躍するために必要となる知的能力を身に付けている。 8. 問題発見・解決能力 ビジネス・パーソンとして活躍するために必要となる、問題を発見し解決する能力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 宮城学院女子大学ホームページ カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針) https://www.mgu.ac.jp/about/policy/curriculum/)

(概要)

現代ビジネス学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

- 一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせ合わせた授業科目を開講する。
- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目を MGU スタンダード科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶専門基礎科目を 1～2 年次の必修科目として配置する。
 - ▶専門基幹科目を 2～4 年次の選択科目として配置する。
 - ▶専門基幹科目の中に、「地域マネジメントコース」、「観光・文化 構想コース」、「共通領域」の科目群を設ける。当該コース以外の科目も選択することができ、現代ビジネス学に関して横断的に学ぶことができる。
 - ▶専門実践科目を、2～3 年次の必修科目として配置する。
 - ▶専門研究科目を、2～4 年次の必修科目として配置する。
 - ▶4 年間の学びの集大成として、卒業論文を配置する。
 - ▶自由展開科目を配置する。

2. 教育内容

- ・MGU スタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・専門基礎科目では、経済、経営、財務、ICT、英語コミュニケーションの基礎を理解し、大学での学びに必要となる基本的なスキルを習得する。
- ・専門基幹科目では、経済、経営、マーケティング／流通、会計／財務、経営情報、観光、地域社会、多文化間ビジネスの各分野における専門知識を段階的に習得する。
- ・専門実践科目では、主体性、実行力、コミュニケーション力、チームワーク力などの実践能力を養う。
- ・専門研究科目では、論理的思考力、国語力、情報収集力、問題発見力などの知的能力を養う。
- ・卒業論文では、自ら問いや課題を見いだして解決を導く、総合的な力を養う。
- ・自由展開科目では、学生が各自の興味関心を追究する学びの機会を提供する。

3. 教育・学習方法

- ・MGU スタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・専門基礎科目では、講義／演習／実践を組み合わせ、大学での学びの基礎をつくる。
- ・専門基幹科目では、講義形式で知識と理論を学ぶ。
- ・専門実践科目では、学生が個人またはグループによって特定の問題解決、創造的活動、フィールドワークなどに取り組む、実践的なプロジェクト型学習を行う。

- ・専門研究科目では、文献講読やディスカッション、個人またはグループによる調査研究およびその成果発表などからなる、学術的な演習授業を行う。
- ・卒業論文では、自ら問いや課題を見だし、合理的な計画と創造的な実践によって結論／解決を導く研究を、学生が自律的に行う。
- ・自由展開科目では、資格取得や学外の各種プログラムへの参加など、学生が各自の興味関心にもとづき主体的に学ぶ。

4. 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・「ビジネス実践実習」の評価は、実践能力をアセスメントするルーブリックに基づいて行う。
- ・「ビジネス研究演習」の評価は、知的能力をアセスメントするルーブリックに基づいて行う。
- ・「卒業論文」の評価は、特定分野の専門知識および知的能力と実践能力の総合力をアセスメントするルーブリックに基づいて行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

<https://www.mgu.ac.jp/about/policy/admissionpolicy/>)

（概要）

現代ビジネス学科では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・ビジネス・パーソンとして活躍する希望を抱き、そのために必要なビジネス学の専門知識と知的能力を身につける学習意欲を有している。
- ・本学科が推進するプロジェクト型学習の理念を理解し、理論学習にとどまらない実践的な活動に取り組む積極的な姿勢を有している。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・急激に変化する現代社会の諸問題を自らの課題と受け止め、大学での学びを通して問題解決に向けて取り組む意識を有している。

学部等名 教育学部

教育研究上の目的（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ 学部、学科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的

<https://www.mgu.ac.jp/about/disclosure/purpose/>)

(概要)

教育学部は、幼児教育や初等・中等教育分野における教育研究を通して、それぞれの専門分野の基礎的な知識や技術及び技能を身につけるとともに、理論と実践に関する深い理解と総合的実践力をもって、幼児、児童、生徒の心身の発達や成長に貢献できる人材を養成することを教育研究上の目的としています。

教育学部教育学科では、教育学・保育学に関する教育研究を通して、これらの領域の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身に付け、理論と実践の関係について理解し、総合的に実践する応用能力の修得に向けた教育を行います。学校や家庭・地域における教育・保育を主体的に創造する能力と態度を身に付けた幅広い職業人を育成することで、地域社会への貢献を目指すことを教育研究上の目的としています。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

<https://www.mgu.ac.jp/about/policy/diplome/>

(概要)

教育学科では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. 専門的な知識と技能
子どもたちの教育や保育に関する専門的な知識と技能を身につけている。
6. 実践的な指導力
子どもを深く理解し、その健やかな成長と発達の可能性を引き出せる実践的指導力を身につけている。
7. 課題解決能力
子どもたちをめぐる諸問題や課題を適切に見極め、解決するための能力を身につけている。

【幼児教育専攻】

教育学科幼児教育専攻では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. 教養と専門
教育学や保育学の基礎知識と心理・福祉の高度な専門性を身につけている。
6. 実践的指導力

子どもの健やかな成長や発達を支援するための高い実践力を備えている。

7. 課題解決能力

地域社会の課題を探求し解決するための基礎的な力を身につけ、持続可能な社会の構築に資する人材となりうる能力を身につけている。

【児童教育専攻】

教育学科児童教育専攻では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容

自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。

2. 共生

社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。

3. 女性のキャリア

自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。

4. リベラルアーツ

幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。

5. 教養と専門

幅広い教養及び教育に関する高度な専門性を身につけている。

6. 実践的指導力

子どもを深く理解する力と子ども達の可能性を引き出せる実践的指導力を身につけている。

7. 課題解決能力

子ども・保護者・社会からの信頼と期待に応え、現代的教育課題の解決に資する人材となりうる能力を身につけている。

【健康教育専攻】

教育学科健康教育専攻では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容

自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。

2. 共生

社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。

3. 女性のキャリア

自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。

4. リベラルアーツ

幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。

5. 専門的な知識と技能

子どもたちの健康と発達を支えるために、子どもたちの教育と発達、健康諸科学に関する専門的な知識と技能を身につけている。

6. 主体的な課題発見・課題解決能力

子どもたちの抱える健康課題、教育課題を適切に見極め、解決するための能力を身につけている。

7. 協働できる力、コミュニケーション能力

子どもたちをはじめとする他者と良好な人間関係を築くなかで、活動することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 宮城学院女子大学ホームページ カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針))

<https://www.mgu.ac.jp/about/policy/curriculum/>

(概要)

教育学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系的性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目を MGU スタンダード科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶教師、保育者として必要な知識や技能を修得するために、専門教育科目、教職に関する科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。
 - ▶4年間の学びの集大成としての卒業研究を配置する。
 - ▶教育職員免許状（幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭：保健体育・英語、高等学校教諭：保健体育、養護教諭、特別支援学校教諭の各1種免許状）取得に必要な科目を開設する。

2. 教育内容

- ・MGU スタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・資格取得に関する専門科目では、それぞれの職務遂行に必要な知識と実践的スキルについて学ぶ。
- ・教育と社会に関する基礎科目、専門的な学習の柱となる学びと体験を目的とする基幹科目、心理科目、福祉科目など多様な内容の科目では、それらの学びを通して専門的知識と教養の幅を広げる。
- ・「卒業研究」では研究・実践活動を通して、各自の関心と専門性を深め、それぞれの活動を体験する過程の中で、それらの活動に不可欠な研究能力、実践能力を養い、4年間の学びの集大成とする。

3. 教育・学習方法

- ・MGU スタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を追体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・各分野の基礎的理解が必要となる科目などでは、講義がベースとなるが、学びの過程にはアクティブラーニングの要素を盛り込み、理解を深める。
- ・専門的内容の学びに際して、それぞれの分野に応じて実験、調査、実習、実技、フィールドワークなど実践的な学びを多く取り入れる。
- ・学外実習科目においては、各実習に際して、学校をはじめ各種施設等の協力を得て、それぞれの業務に関する体験活動を通して職務遂行上の実践的知識と実践的スキルの統合的習得を図る。

4. 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・「卒業研究」の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

【幼児教育専攻】

教育学科幼児教育専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目を MGU スタンダード科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶教師、保育者として必要な基礎的知識や技術等を学ぶ基礎科目、基幹科目の上に、学年進行に合わせて幼児教育、保育、心理、福祉の専門教育科目及び実習を配置する。
 - ▶4年間の学びの集大成としての卒業研究を配置する。
 - ▶教育職員免許幼稚園教諭1種取得に必要な科目を開講する。

2. 教育内容

- ・MGU スタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・基礎科目は、学問としての「教育学」を幅広く学び、教育を学ぶことの意味をとらえる科目である。
- ・基幹科目は、基礎科目の学びを受けて、保育者としてのキャリア形成に必要な専門的な科目であり、子ども理解の柱となる学びと体験を目的とする科目である。
- ・幼児教育科目、保育科目、心理科目、福祉科目、実習科目は、それぞれの専門分野の学習と実習であり、免許、資格を取得し、それらの専門分野の理論と実践について深く学ぶための科目である。
- ・ゼミナール、卒業研究は、研究、実践活動を通して、分析力、考察力、プレゼンテーション能力などを養い、4年間の学びの集大成とするための科目である。

3. 教育・学習方法

- ・MGU スタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって

学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を体験する。

- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・幼児教育科目、保育科目、心理科目、福祉科目、実習科目では、施設等における現場実習、実験・調査やフィールドワークといった実践的な学びを中心としている。
- ・学校臨床研究の一部で北欧での海外研修を実施し、最先端のSDGs教育について体験的に学ぶ。
- ・卒業研究では、心理系、福祉系、保育幼児教育系、教育学系の少人数ゼミにおいて、自己の研究テーマについて主体的に調査、分析、考察を行い、卒業論文を作成し、自己の研究成果についてプレゼンテーションを行う。

4. 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・「卒業研究」の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。
- ・教養と専門（教育学や保育学の基礎知識と心理、福祉の高度な専門性）については、幼児教育科目、保育科目、心理科目、福祉科目それぞれに配置された科目のシラバス記載の基準と方法に従って行う。
- ・実践的指導力（子どもの健やかな成長や発達を支援するための高い実践力を備えている。）については、実習科目における、養成課程共通の評価表に基づいて行う。
- ・課題解決能力（地域社会の課題を探求し、解決するための基礎的な力を身につけ、持続可能な社会の構築に資する人材となりうる能力を身につけている。）については、ゼミナール、卒業研究に配置された科目のシラバス記載の基準と方法に従って行う。
- ・「卒業研究」は、問題意識と課題設定がはっきりしているかを診断的評価を行い、構想発表と中間発表への取り組み状況を踏まえて形成的評価を行う。最後に、卒業論文の質的評価と完成度を総括的に評価する。

【児童教育専攻】

教育学科児童教育専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系的性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目をMGUスタンダード科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶一般教育科目、専門教育科目、教職に関する科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。
 - ▶専門教育科目の中に基礎科目、基幹科目、教職に関する科目（初等教育科目、英語教育科目、特別支援教育科目、心理科目、実習科目）、ゼミナール、卒業研究を配

置する。

▶「小学校教員免許＋幼稚園教諭免許」の取得を目指す「幼小コース」、「小学校教員免許＋特別支援学校教諭免許」の取得を目指す「小特コース」、「小学校教員免許＋中学校教諭(英語)」の取得を目指す「小中コース」を設定し、それぞれに教職に関する科目(初等教育科目、英語教育科目、特別支援教育科目)を配置する。

2. 教育内容

- MGUスタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- すべてのコースにおいて、小学校教諭の職務遂行に必要となる教育原理、教育法、教育制度などに関する知識と実践的スキルについて学ぶ。
- 「幼小コース」では、「小学校教員免許＋幼稚園教諭免許」の取得を目指し、小学校での教育に関する知識・技能に加えて、保育や幼児教育に関する知識と実践的スキルについて学ぶ。
- 「小特コース」では、「小学校教員免許＋特別支援学校教諭免許」の取得を目指し、様々な障害等に関する心理・生理・病理や適切な教育法に関する知識と実践的スキルについて学ぶ。
- 「小中コース」では、「小学校教員免許＋中学校教諭(英語)」の取得を目指し、小学校での教育に関する知識・技能に加えて、英語教育に必要となる異文化理解や英語科教育法といった知識と実践的スキルについて学ぶ。
- 演習・実習科目では学校現場での活動を通して、実践的指導力を高める。

3. 教育・学習方法

- MGUスタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を追体験する。
- キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- 1年次開講の専門基礎演習等では小学校の現場の様子を、教員の解説を交えて見学し、演習形式のディスカッションによって理解を深める。
- 2～4年次に開講される「学校臨床研究」は、教育現場で授業研究(児童の把握、単元の把握、授業見学、意見交換、授業内容のふりかえり等)を行う。
- 「教育実習」は、3年時に全学生が小学校に、4年時は選択した学生のみ特別支援学校や中学校(英語教育)に赴き、現場での教員の活動を実地で学び、研究授業を行う。幼小コースでは2～3年時に幼稚園での実習を行う。
- 演習・実習科目では学校現場での活動を通して、実践的指導力を高める。

4. 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

- 「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- 「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- 「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。

- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・「卒業研究」の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

【健康教育専攻】

教育学科健康教育専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目を MGU スタンダード科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶教師として必要な知識や技能を修得するために、専門教育科目群と教職に関する科目を配置する。
 - ▶4年間の学びの集大成としての卒業研究を配置する。
 - ▶教育職員免許中学校保健体育1種・高校保健体育1種・養護教諭1種取得に必要な科目を開講する。

2. 教育内容

- ・MGU スタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・養護教諭養成に関わる科目では、養護教諭の職務遂行に必要となる学校保健、養護・看護、基礎的医学などに関する知識と実践的技能について学ぶ。
- ・保健体育教諭養成に関わる科目では、保健体育教諭の職務遂行に必要となる運動学、スポーツ実技などの保健体育指導のための理論、実践技能について学ぶ。
- ・教職に関する科目、学校教育科目では、教員としての職務遂行に必要な学校教育、教育の理論や方法などに関する知識や実践的技能を学ぶ。
- ・そのほか教育と社会に関する基礎科目、心理科目、福祉科目、特別支援科目など多様な内容を学び、専門的知識と教養の幅の広がりを目指す。

3. 教育・学習方法

- ・MGU スタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・講義系科目：各専門分野、教職科目の基盤となる内容の科目については、講義をベースに分野ごとの基礎理論や方法、あるいは指導方法などの習得を図る。学びの過程にはアクティブラーニングの要素を盛り込み、理解を深める。
- ・ゼミナール科目：入門期科目では大学での基本的な学習・研究方法について演習形式で学び、3・4年次の「卒業研究」に向けた科目では、同一教員のもとで卒業研究（卒業論文）作成に向けた準備、執筆を演習並びに個別指導のもと行う。

- ・実技、実践、学内実習科目：実技指導、グループワーク、ロールプレイ等を通して、理論的知識、実践的スキル等の習得を図る。また学外実習（看護実習）に備えて、学内実習という形で、知識とスキルを実践的に学ぶ。
- ・学外実習科目：2年次～4年次に配置された各実習では、学外の学校、病院の協力を得て、それぞれの業務に関する体験活動を通して職務遂行上の実践的知識と実践的スキルの統合的習得を図る。

4. 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・「卒業研究（卒業論文）」とそれに連なる演習科目は、取り組みの過程で形成的アセスメントを行い、最終的に目標到達度に沿った評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：入学者の受入れに関する方針（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）
<https://www.mgu.ac.jp/about/policy/admissionpolicy/>）

（概要）

教育学科では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・子どもたちの成長と発達に関心を持ち、教育や保育について専門的に学ぶことに意欲と情熱を持っている。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・教育、保育分野のスペシャリストを目指そうとする強い目的意識を持っている。

【幼児教育専攻】

教育学科幼児教育専攻では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・教育や保育に関連する専門的な学びに対する強い興味と関心、意欲を有しているこ

と。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・保育・幼児教育の専門性を高め、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の取得を目指している。
- ・認定心理士と社会福祉士の資格取得することと同時に、子どもの心と心の発達の理解、支援の方法を学ぶ明確な目的意識を有している。

【児童教育専攻】

教育学科児童教育専攻では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。
- ・幅広い教養と教科に関する高い専門性を修めるための基礎的学力をもっている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・子どもの人格形成に影響を及ぼす教育という営みを探求することに強い関心を持っている。
- ・子どもが主体的・協働的に学ぶ授業を展開できる実践的指導力を身につけようとする意欲を持っている。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・教育のスペシャリストを目指そうとする目的意識を持っている。

【健康教育専攻】

教育学科健康教育専攻では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・今日の子どもたちの抱える多様な健康問題に取り組み、子どもたちの健やかな成長と発達に寄り添っていくという意欲と情熱を持っている。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・「教育」という、人間の成長発達を支える営みとそれに関わる仕事に強い関心を持っている。

学部等名 生活科学部
教育研究上の目的（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ 学部、学科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的 https://www.mgu.ac.jp/about/disclosure/purpose/ ）
<p>（概要）</p> <p>生活科学部は、衣・食・住を中心とする人間の生活環境や社会環境等、生活科学に関する教育研究を通して、それぞれの専門分野の基礎的な知識や技術及び技能を身につけるとともに、理論と実践に関する深い理解と総合的実践力をもって、地域社会や地域産業に貢献できる人材を養成することを教育研究上の目的としています。</p> <p>【食品栄養学科】</p> <p>食品栄養学科は、基礎的な学習能力を養い、自然・社会に対する理解を深めるとともに、専門分野の体系的学習を通して、食と栄養にかかわる社会の課題を探究し、問題を解決する能力を身につけます。また、学外での実習では、実践能力と地域社会に対する理解とを深め、演習により、知識の活用能力、論理的思考能力、コミュニケーション能力の修得を目指すことを教育研究上の目的としています。</p> <p>【生活文化デザイン学科】</p> <p>生活文化デザイン学科は、生活にかかわる諸問題について「文化」「環境」「デザイン」の側面から総合的にとらえる姿勢や情報収集と分析、プレゼンテーションなどの基礎的能力を養い、それらの基礎力と、生活科学及び建築学などの幅広い専門知識に基づき、各自の目標に応じて、教員、学芸員、建築士などの専門家として、次世代に向けた提案（教育、デザイン等）を行うことができる能力の修得を目指すことを教育研究上の目的としています。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針) https://www.mgu.ac.jp/about/policy/diplome/ ）
<p>（概要）</p> <p>生活科学部では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己受容 自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。 2. 共生 社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。 3. 女性のキャリア 自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。 4. リベラルアーツ 幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。 5. 知識・理解 生活科学の有する総合性を理解し、食品栄養学または生活文化デザイン学における高度な知識を有している。 6. 思考・判断 生活科学に関する課題を発見し、それを論理的に思考し解決することができる。 7. 技能・表現 現実社会の多様な情報を客観的に理解し、それを収集・分析・表現することができる。 目標に向けて他者と協同して取り組む能力およびコミュニケーション能力を有している。

8. 関心・意欲・態度

専門家として生活を科学的に分析し、問題点を指摘し、より質の高い生活のための支援と持続可能な社会の実現に貢献することができる。

【食品栄養学科】

食品栄養学科では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. 専門知識と実践力
栄養士として必要な知識及び技能を修得し、さらに管理栄養士国家試験に合格できる十分な知識と能力を身につけている。
6. 主体的課題発見力と解決力
食と栄養に関わる社会的課題を的確に捉え、解決に向かって行動することができる。
7. コミュニケーション力
他者とのコミュニケーションを通して食と栄養に関わる知識を活用することができる。
8. 社会人として学び続ける姿勢
将来にわたって地域社会に貢献することを目指して、自己研鑽を続けるための姿勢と基盤となる専門知識を獲得している。

【生活文化デザイン学科】

生活文化デザイン学科では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. 専門分野の知識の修得
生活文化・地域社会、住居・インテリアデザイン、および、建築・まちづくりなどの専門知識を修得している。
6. 問題を発見し解決する力
自分が関心を持った分野に対して、生活、文化、環境、デザインなどの側面から社会との関わりを意識しながら探求する姿勢を有している。
7. 情報収集・分析し提示する力
自分が関心を持った分野に対して、専門知識に基づく情報収集と分析、プレゼンテ

ーションの能力を身につけている。

8. 専門的立場から提案する力

家庭科教員、学芸員、建築士、インテリアデザイナー、まちづくりの専門家等としての提案能力を有し、社会に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法:宮城学院女子大学ホームページ カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)
<https://www.mgu.ac.jp/about/policy/curriculum/>)

(概要)

生活科学部では、学位授与方針に掲げる能力を持つ人材を養成するため、次のような教育課程を編成・実施する。

1. 教育課程の編成

一般教育科目と専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

- ・一般教育科目では、本学で学ぶ基礎となる科目をMGUスタンダード科目として配置し、学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・生活科学の各領域に関連する資格を念頭に置きながら、理論的かつ実践的な学びを深められるように、1年次から4年次まで専門教育科目を順次的・系統的に配置する。
- ・専門的知識・スキルに基づいた、自律的な探求的思考を促す卒業演習・卒業研究を3・4年次に配置する。
- ・教諭(家庭科)、栄養教諭、司書教諭、学芸員、管理栄養士、食品衛生管理者・監視員、建築士、インテリアプランナーなどの資格取得に必要な講義科目と、学内で実施される演習科目や実験科目、学外で実施される実習科目などを適切に組み合わせた配置とする。

2. 教育内容

- ・MGUスタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・専門教育科目では、生活科学の各領域に関連する資格を念頭に置きながら、理論と実践を往還的に学び、生活科学に関する広範囲な専門的知識や技能を修得する。
- ・卒業研究では、4年間で身につけた専門的知識や技能を活用して、自律的にまとめ上げる力を養成する。

3. 教育・学習方法

- ・MGUスタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を追体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・専門教育科目では、人と環境に関わる複合領域としての生活科学の総合性を理解し、社会全体の生活の質の向上に資する人材を育成するため、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせ実施する。

4. 学修成果の評価

- ・各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

・演習、実験、実習、卒業研究等の学修成果は、主にルーブリックに基づいて行う。

【食品栄養学科】

食品栄養学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

- ・一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。
- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目を MGU スタンド科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶専門基礎分野、専門分野の科目群を配置する。
 - ▶発展型統合学修として、「卒業研究基礎演習」と「卒業研究演習」を配置する。
 - ▶栄養士・管理栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員、および食品衛生管理者の養成課程を配置する。
 - ▶教育職員免許栄養教諭1種取得に必要な科目を開設する。

2. 教育内容

- ・MGU スタンド科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・専門基礎分野では、「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」の領域について教授する。
- ・専門分野では、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」を必修科目として編成する。併せて食品関連科目と学校栄養関連科目についても教授する。
- ・専門分野では、実践活動の現場で学習する臨地実習を配置する。
4年間で学んだ知識の整理と体系化を図り、国家試験対策のための「管理栄養士演習」を配置する。
- ・「卒業研究基礎演習」と「卒業研究演習」では、卒業論文の執筆を通して科学的態度の形成と生涯にわたって自律的に学び続ける能力の獲得につなげる。

3. 教育・学習方法

- ・MGU スタンド科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・専門基礎科目群では、主に講義で学んだ知識を実験・実習を通して理解を深める。
- ・専門分野科目群では、講義や演習で身につけた知識や技能を学内外の実習を通して内実化する。
- ・総合演習および臨地実習では、実践的な活動を通して専門的知識と技能の統合を図る。

4. 学修成果の評価

- ・栄養士・管理栄養士としての専門知識および実践力については、各授業科目の履修状況により評価する。各授業科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。
- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・食と栄養に関わる主体的課題発見力と解決力については、「卒業研究」において共通のルーブリックに従って評価する。
- ・コミュニケーション力および社会人として学び続ける姿勢に関しては学内実習・臨地実習において共通のルーブリックに従って評価する。

【生活文化デザイン学科】

生活文化デザイン学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目を MGU スタンダード科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶専門基礎科目/専門基幹科目の科目群を配置する。
 - ▶専門基幹科目の中に、「生活文化・地域社会コース」「建築・まちづくりコース」「住居・インテリアコース」を設けている。当該コース以外の科目も選択することができる。
 - ▶4年間の学びの集大成としての卒業研究(卒業論文・卒業設計)を配置する。
 - ▶教育職員免許中学校家庭1種・高校課程1種取得に必要な科目を開講する。

2. 教育内容

- ・MGU スタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・専門基礎科目では、各分野の基礎的知識を幅広く学ぶと同時に、文献・社会調査などの研究手法や情報処理の理論から実践までを学ぶ。
- ・専門基幹科目では、家族と社会とライフコース、生活と経済とマーケティング、服飾・生活造形、生活環境と建築に関する専門知識・技能を学ぶ
- ・卒業研究では、3年次から各研究室に所属し、卒業論文・卒業設計のいずれかに取り組む

3. 教育・学習方法

- ・MGUスタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を追体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・講義型の授業では、議論や発表を含むアクティブラーニング型の講義形式によって生活文化の各分野の理論を学ぶ。
- ・情報分野の演習科目では、ヴィジュアル系アプリケーションの操作を通じてデザインの表現手法を習得する。
- ・演習系の授業（建築・インテリア）では、個人指導型および成果発表型の学習によって、設計力とプレゼンテーション能力を磨く。
- ・実験系の授業では、講義で学んだ内容をベースにしなが、実際に機器を用いて物理量を測定する。また、取得したデータを統計的に処理する能力を培う
- ・演習系の少人数ゼミ型演習科目では、各自の問題意識に基づき生活諸事象に関する課題を追求し、分析力、論理的展開力、批判的思考力を強化する。

4. 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・演習系科目（情報）の評価は、デザイン系アプリケーションを使った成果物により、自分の考えを表現し、人に伝えるという点を主眼をおき、とくに表現手法、明解さ、完成度によって評価する。評価には教員によるものに加え、学科展等における一般の視点も取り入れ、多角的に行う。
- ・演習系科目（建築・インテリア）の評価は、毎回の授業での提出物、および制作物に反映された基本的スキル（図面、模型、プレゼンテーションボードの表現）とコンセプト、および、制作物の完成度、および、プレゼンテーションの内容によって評価し、特に優れた点や問題点などの評価内容については講評会等で公表する。
- ・実験系科目の評価は、実験種別ごとに適切なルーブリックを学生に示し、その内容に基づいて評価を行う。
- ・卒業論文の評価はルーブリックに基づき行う。
- ・卒業設計の評価は、制作物に反映された基本的スキル（図面、模型、プレゼンテーションボードの表現）とコンセプト、および、制作物の完成度、および、プレゼンテーションの内容によって評価し、特に優れた点や問題点などの評価内容については講評会等で公表する。
- ・DPの各項目の評価については、該当する科目（シラバスに記載）の評価を積み重ねることで評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ アドミッション・ポリシー（入学受入れの方針）

<https://www.mgu.ac.jp/about/policy/admissionpolicy/>)

(概要)

生活科学部では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・より質の高い生活を可能とするための支援と持続可能な社会の実現に関心を持ち、またそれを探求する意欲を持っている。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・生活に関する課題を科学的に捉え、多様な情報を収集・把握・分析し、その解決を図ることで社会貢献を果たしたいという意思を持っている。

【食品栄養学科】

食品栄養学科では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。
- ・科学に興味を有し、化学と生物についての基礎的な知識を有している。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・食と健康への関心が高く、広範な食と人に関する強い学びの意欲を持っている。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・栄養・食生活を核としたコミュニケーションを通して、人々の健康と幸福に寄与する仕事につきたいとの目的意識を有している。

【生活文化デザイン学科】

生活文化デザイン学科では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・生活文化・地域社会、住居・インテリアデザイン、および、建築・まちづくりなどに対する関心と問題意識を有している。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・家庭科教員、学芸員、建築士、インテリアデザイナー、まちづくりの専門家等として社会に貢献することを目指している。

学部等名 学芸学部

教育研究上の目的（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ 学部、学科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的）

<https://www.mgu.ac.jp/about/disclosure/purpose/>

（概要）

学芸学部は、人文学から芸術学にわたる学問分野に関する教育研究を通して、幅広い教養とそれぞれの専門分野の基礎的な知識や技能を身につけるとともに、現代社会が抱える多様な問題に対応する総合的実践力をもって、地域社会や国際社会に貢献できる人材を養成することを教育研究上の目的としています。

【日本文学科】

日本文学科は、文学・語学・文化・日本語教育の4分野から、幅広くかつ体系的に「日本のことばと文化」を学び、「日本のことばと文化」について専門的な知見を有し、国内外で社会の発展と文化の向上に貢献し得る教養ある社会人の養成を目指すことを教育研究上の目的としています。

【英語文化コミュニケーション学科】

英語文化コミュニケーション学科は英語を中心とする実践的な言語運用能力と「ことば」および多様化する文化や社会の学術的な理解をもって、粘り強く語ることでできる力を身につけて、他社との間にコミュニケーションの回路を構築し、現代社会における様々な課題を解決することができる人材の育成を教育研究上の目的としています。

【英文学科】

英文学科は、英語の実践的スキルを高めながらことばの感性を磨くとともに、英語学、英米文学・文化の専門領域について学習し、自らの視野を広げ、国際理解の立場に立って、自分と異なる価値観を持つ人と意見の交流ができる能力を身につけることを教育研究上の目的としています。

【人間文化学科】

人間文化学科は、主体的な実践力を身につけることを目標とし、世界と日本の文化について総合的な教養を身につけ、特定の学問や資格に偏らない柔軟な思考力の獲得と、国際社会で生き抜く力の養成を目指すことを教育研究上の目的としています。

【心理行動科学科】

心理行動科学科は、一般教育科目の履修を通して幅広い教養を身につけること、ならびに、人間の心理および行動の特性について学修し、人間についての理解を深めるとともに、科学的思考の能力の養成を目指すことを教育研究上の目的としています。

【音楽科】

音楽科は、音楽についての確かな専門知識と基礎能力をそなえた人材を社会、とりわけ演奏や教育の現場に送り出すことを目指します。器楽コースと声楽コースでは、演奏技術と表現力を高め、表現者として音楽文化の創造的発展に寄与する人材を育成します。また作曲コースでは、確かな理論的基礎と創作力をそなえ、作曲家・編曲者として社会のニ-

ズに比べられる人材を養成します。いずれのコースにおいても、指導力、応用力、コミュニケーション力を磨き、教育や演奏の現場において指導者として活躍できる人材の育成を教育研究上の目的としています。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)）
<https://www.mgu.ac.jp/about/policy/diplome/>)

（概要）

学芸学部では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. 知識と技能
言語、音楽、美術などの文化や社会、人間の心理や行動に関する専門知識や技能を身につけ、それらを実践的に運用し、表現することができる。
6. 主体的に学び表現する力
言語、音楽、美術などの文化や社会、人間の心理や行動に関して、自らが問題を発見し、科学的、合理的に解決することができ、創造性豊かに表現することができる。

【日本文学科】

日本文学科では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. 日本のことばと文化に関する専門的で体系的な知識
日本のことばと文化について、専門的で体系的な知識を修得している。
6. 問題発見・解決能力、批判的思考力、論理的構成員力
日本のことばと文化について、自分なりに課題を設定し、適切な研究方法に基づいて調査・分析・考察を行い、最終的に首尾結構の整った卒業論文としてまとめあげることができる。
7. 専門性に裏付けられた適切・的確な日本語運用能力
日本のことばと文化に関する体系的な知識と深い理解に基づいて、読むこと・書くこと・話すこと・聞くこと等、言語の4技能を的確に運用し、他者と適切なコミュ

ニケーションをはかることができる。

【英語文化コミュニケーション学科】

英語文化コミュニケーション学科は、次のような能力・資質をもった人物を育成するために、ディプロマ・ポリシーを設定する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. 言語運用能力
英語を入口に、言語の基本的技能を段階的に発展させ、個々の目的に応じて運用することができる。
6. 専門知識の修得と考察力
言語、文学・文化、およびこれらを伝えるメディア、そしてコミュニケーションについての諸相を広く深く理解するための知識を身につけ、事象を分析・考察し、特質を見出し、言語化できる。
7. コミュニケーション能力
自分の考えの萌芽を自覚でき、異なる価値観を持つ人との意見の交流を重ね、自分のことばで考えを発信できる。
8. 思索力と問題解決能力
専門領域の学修を活かして、主体的に問いを設定し、その問いに対して粘り強く思索し、問題を解決したり、新しい価値を創造したりできる。

【英文学科】

英文学科では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. English Skills:英語力
英語の文法および語彙知識を身につけ、聞く・話す・読む・書くという4つの技能を実践的に運用することができる。
6. Knowledge:専門知識
英語学コースにおいては、英語の音声・構造・意味を広く深く理解するための知識及び英語教育に関する専門知識を身につけている。
英米文学・文化コースにおいては、英米の詩・小説・演劇・批評や文化を広く深く理解するための知識を身につけている。
7. Thinking & Analysis:思考力と分析

専門領域の学修を生かして、主体的に問いを設定し、その問いに対して粘り強く問題点を分析し考察することができる。

【人間文化学科】

人間文化学科では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. 人間文化の教養
日本やアジア、ヨーロッパで人間が育んできた歴史や文化について総合的な教養を身につけ、それをもとに考察することができる。
6. 人間文化の思考力と実践力
日本やアジア、ヨーロッパの歴史や文化について柔軟に思考することができ、そこで見いだされる問題の解決に向けて様々な人々と話し合うことができる。
7. 課題研究と表現
歴史や文化の研究に必要な研究方法を理解し、各自の問題意識に基づいて設定したテーマについて批判的に考察し、その結果を表現することができる。

【心理行動科学科】

心理行動科学科では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. 心理学に関わる知識・技能・態度
心理学に関連する専門的知識を広く理解し、人間の行動や心の働きを測るための技法を習得している。
他者を尊重し、利害や意見の相違を越えて傾聴と共感の姿勢を身につけている。
6. 事象を科学的にとらえる力
課題を発見してそれを科学的に検討し、その結果を他者に正しく伝えることができる。
7. 思考力・表現力・コミュニケーション力
批判的思考力、適切な表現力、およびディスカッションの能力を身につけている。
8. 実践課題に取り組み、解決を目指す力
社会的課題を他者と協働して解決しようとする意欲をもつとともに、自省を通して常に向上しようとする意欲をもつ。

【音楽科】

音楽科では、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に、学位を授与する。

1. 自己受容
自らの価値に肯定的に向き合い、他者との関係の中でその理解を深め、高めることができる。
2. 共生
社会の諸問題に対して、他者と協働して解決に取り組むことができる。
3. 女性のキャリア
自らの女性としての将来像を描き、主体的にキャリアを構築することができる。
4. リベラルアーツ
幅広い教養を自らの専門性と連携させて、正解の見えない課題に取り組むことができる。
5. 音楽についての確かな専門知識と基礎能力
音楽についての確かな専門知識と能力を体系的に身につけている。
6. 表現者・作曲者・編曲者として創造性
表現者・作曲者・編曲者として社会のニーズに応える中で、創造性を発揮できる。
7. 指導力、応用力、コミュニケーション力
教育や演奏の現場において活躍するための指導力、応用力、コミュニケーション力を身につけている。
8. 課題を仕上げる力
与えられた課題を期限内に解決するために必要な判断力と計画性を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<https://www.mgu.ac.jp/about/policy/curriculum/>

（概要）

学芸学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のようにカリキュラムを編成する。

1. 教育課程の編成
一般教育科目と専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。
 - ・一般教育科目では、本学で学ぶ基礎となる科目をMGUスタンダード科目として配置し、学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
 - ・専門教育科目では、基礎科目や発展科目、演習科目等を段階的に配置し、4年間の学びの集大成としての卒業研究を配置する。
 - ・教員、学芸員、図書館司書、公認心理師、認定心理士などの資格取得に必要な講義科目を学内で実施される演習科目や実験科目、国内外で実施される実習科目などと適切に組み合わせ開講する。
2. 教育内容
 - ・MGUスタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
 - ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
 - ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
 - ・専門教育科目では、言語、音楽、美術などの文化や社会、人間の心理や行動に関する

専門知識や技能を修得し、演習、実験、実習などをおしてそれらの修得状況を確認するとともに、自己表現し、他者とコミュニケーションをとる方法を学ぶ。

- ・卒業研究に取り組み、まとめるために必要な思考や技術を段階的に学ぶ。
3. 教育・学習方法
- ・MGUスタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
 - ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を体験する。
 - ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
 - ・専門教育科目では、言語、音楽、美術などの文化や社会、人間の心理や行動に関する
 - ・専門教育科目については、講義や実技での授業を主とするとともに、アクティブ・ラーニングにより主体的に考え、表現し、コミュニケーションを通じて課題の解決へとつなげるために演習や実習を行う。
 - ・より専門的な研究分野やコースなどを設けることで、卒業研究につなげる。
 - ・人間の心理や行動、国内外の文化に対して見聞を広めるために、国内外で実習を行う。
 - ・自主的に取得した専門科目に関連する各種検定を修得単位として認定する科目を設けることにより、学習への積極性を養い、自己肯定感を得る。

4. 学修成果の評価

- ・各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。
- ・演習科目や卒業研究についての評価は、主にルーブリックに基づいて行う。

【日本文学科】

日本文学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目をMGUスタンダード科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶基礎科目、日本文学系科目、日本文化系科目、日本語学系科目、日本語教育系科目、共通科目、キャリア形成科目を体系的に編成し、それぞれ講義と演習をバランスよく配置する。
 - ▶4年間の学びの集大成としての卒業研究を配置する。
 - ▶中学校教諭一種免許（国語）、高等学校教諭一種免許（国語）、学校図書館司書教諭、日本語教員、図書館司書等の資格取得に必要な科目を配置する。

2. 教育内容

- ・MGUスタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。

- ・1年次は専門教育科目全体の基礎として基礎科目を置く。基礎科目のうち主要な科目は必修（一部選択必修）とし、講義科目と演習科目を配置する。また、将来を見越して1年次のうちからキャリア形成科目や教職関係科目を置き、卒業後も必要になる基礎的な知識とスキルを修得する。
- ・2年次は3年次のゼミ（専攻、専門分野）選択を念頭に、日本文学・文化系科目、日本語学・日本語教育系科目を置き、それぞれ講義科目と演習科目を配置して、より専門的な知識と研究能力の修得を図る。また、分野横断的に共通科目、キャリア形成科目を置く。共通科目は日本文学・日本文化・日本語学・日本語学教育といった専門分野の枠を超え、周辺領域を含む多様な学問分野について学ぶ。
- ・3年次はゼミに所属し、当該分野の演習科目においてより専門性を深めるとともに、日本文学・日本文化・日本語学・日本語教育学等主要4分野はもちろん、周辺領域の講義科目（共通科目）を多数配置し、幅広い視野と教養の確保、涵養につとめる。

3. 教育・学習方法

- ・MGUスタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・講義科目については、講義形式を主としつつ、適宜アクティブラーニングの手法を取り入れ、学生自身の主体的な学修を目指す。
- ・卒業研究（論文）を含む演習科目については、学生自身の主体的な学修活動に重きを置き、実践的に調査・分析・考察等、研究能力の育成を図る。

4. 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・卒業研究（論文）を含む演習科目の評価は、学科で共有されている標準的な成績評価基準に基づいて、(1) 文章の精確さと論理性、(2) 研究史への目配り、(3) 課題設定および調査・分析・考察・論証の妥当性等を基準に評価、判断する。

【英語文化コミュニケーション学科】

英語文化コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーの達成および育成する人材像に求められる諸能力・資質の涵養を目指した教育課程の編成および実施の方針は、以下のカリキュラム・ポリシーにまとめられる。

(1) 教育科目の編成

一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。その他、資格に関する授業科目を開講する。

【一般教育科目】

- ①本学で学ぶ基礎となる科目を[MGUスタンダード科目]として配置する。
- ②学年進行に従って[リベラルアーツ基幹科目]・[キャリア科目]・[外国語科目]・[体育科目]を配置する。

【専門教育科目】

- ①[英語技能科目(English Skills)]を1・2年次の必修科目として、3・4年次の選択

科目として配置する。

②[専門基幹科目]を1～4年次に必修、選択必修、および選択科目として配置する。

③[専門基幹科目]に〈言語文化系科目〉と〈メディア文化系科目〉を置く。

④[専門発展科目]に1～4年次に必修、選択必修、および選択科目を配置する。

⑤[専門発展科目]に〈コミュニケーション演習科目〉、〈コミュニケーション実践科目〉、〈キャリア支援科目〉、〈卒業研究〉を置き、[英語技能科目]や[専門基幹科目]で身につけた技能や知識を応用する。3・4年次には、[専門基幹科目]の〈言語文化系科目〉と〈メディア文化系科目〉の応用科目「専門セミナー(言語文化)」、「専門セミナー(メディア文化)」を置き、選択必修とする。その展開として「卒業研究セミナー」、「卒業論文」を必修科目として配置する。

(資格に関する科目)

中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許(英語)取得に必要な科目を開設する。

(2) 教育内容

一般教育科目および専門教育科目における教育内容は、次のとおりである。

①[MGUスタンダード科目]では、専門分野を探究する際の基礎スキルを修得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。

②[リベラルアーツ基幹科目]では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。

③[キャリア科目]では、男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。

④[英語技能科目(English Skills)]では、1・2年次はレベルに合ったクラスで、基礎力を身につけながら、聞く・話す・読む・書くの4つの技能を高め(必修科目)、3・4年次では、より専門的な場で通用する能力を身につける(選択科目)。

⑤[専門基幹科目]〈言語文化系科目〉では、言語のしくみを理解し、言語運用を可能にしている言語能力の本質、言語獲得のプロセスや言語の多様性・普遍性について多面的に学び、コミュニケーションとの関係を探る。

⑥[専門基幹科目]〈メディア文化系科目〉では、英語圏を中心に様々な地域の文化を学び、文学・演劇・美術・表象文化など広い意味でのアートを研究対象とし、メディアを使った多様な表現やコミュニケーションに出会い、発見を言葉にできる力を身につける。多様化するメディア社会およびコミュニケーションをめぐる社会の理解を深め、批判的に見る力を養う。

⑦[専門発展科目]〈コミュニケーション演習科目〉〈実践科目〉〈キャリア支援科目〉〈卒業研究〉のうち、演習科目では、他者を知る力、自分を知る力(1年次)、諸メディアを使った実践技能と考えを伝える力(2年次)、専門的知識や技能を応用して、思索する力と議論できる力(3年次)、問いを立て、自らのコミュニケーション力を活かしながら、問題解決できる能力(4年次)を身に付け、これらの総合的な力を〈卒業研究〉で養う。〈実践科目〉、〈キャリア支援科目〉では、事前学修を交えて、上記を实地研修や海外留学を通して身につけていく。

(3) 教育・学修方法

一般教育科目および専門教育科目における教育・学修方法は、次のとおりである。

【一般教育科目】

①[MGUスタンダード科目]では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。

②[リベラルアーツ基幹科目]では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を追体験する。

③[キャリア科目]キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。

【専門教育科目】

①[英語技能科目]では、レベルや目的に合ったクラス編成を行い、少人数による対面授

業のほか、教室以外場で e-ラーニング等のメディアを用い、フィードバックを与えながら、一人ひとりのレベルにあった学修を行う。

②[専門基幹科目]では、言語文化やメディア文化の専門知識の修得と事象を考察する力を、講義と課題の繰り返しにより養う。

③[専門発展科目]では、[英語技能科目]や[専門基幹科目]での学びを応用し、演習や実習形式で行う。学年が進行するにつれて、与えられた課題から、各自で問題を設定できる能力を養い、プロジェクトや論文を完成させることにより、問題解決能力を養う。

(4) 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法、または授業で示すルーブリックに従って行う。

「DP 1. 自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。

「DP2 共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。

「DP3 女性のキャリア」については、[キャリア科目]のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。

「DP4 リベラルアーツ」については、〈卒業研究〉に対してルーブリックによって評価する。

「DP5 言語運用能力」については、[英語技能科目]におけるシラバス記載の基準と方法に従って行う。

「DP6 専門知識の修得と考察力」については、[専門基幹科目]や[専門発展科目]のシラバス記載の基準と方法、または授業で示すルーブリックに従って行う。

「DP7 コミュニケーション能力」については、主に[専門発展科目]の授業で示すルーブリックに従って行う。

「DP8 思索力と問題解決能力」については、[専門発展科目]の授業で示すルーブリックに従って行う

【英文学科】

英文学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

・一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

・一般教育科目は、次のように編成する。

▶本学で学ぶ基礎となる科目を MGU スタンダード科目として配置する。

▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。

・専門教育科目は、次のように編成する。

▶次の3つの科目群を配置し、学年進級とともに内容が初級から上級、基礎から応用となるように授業科目を配置する。

① 英語基礎科目

② 英語学コース専門科目

③ 英米文学・文化コース専門科目

▶4年間の学びの集大成としての卒業研究を配置する。

▶教育職員免許中学校英語1種・高校英語1種取得に必要な科目を開講する。

▶留学や学内外での英語活動などで要件を満たすものを単位認定する。

2. 教育内容

・MGU スタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。

・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーション

ンを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。

- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・英語基礎科目 1、2 年次では、聞く・話す・読む・書くの英語の 4 つの技能および文法や語彙知識を身につけるために、学生のレベルに合う内容を全ての授業で提供する。英語基礎科目 3、4 年次では、コース専門科目と連携しながらより高度な言語運用能力を養う。
- ・英語学コース専門科目では、言語運用を可能にしている言語知識の性質、発達プロセス、用法について多面的に学ぶ。また、ここで得られた知識は、英語教育の基盤となる。
- ・英米文学・文化コース専門科目では、英語圏の文学作品や文化を読み解く力を強化することを通して、言葉に対する感性を磨くとともに、自分の意見をまとめ、議論する能力を養う。

3. 教育・学習方法

- ・MGU スタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・英語基礎科目では、レベルや目的に合ったクラスで、以下のアクティブラーニングにより” English learner から English user” になることをめざす。
- ・「話す」「書く」は、少人数クラスで双方向授業による学習を行う。
- ・「聞く」は、オンライン教材等を利用した双方向授業による学習を行う。
- ・「語彙」「多読」は、e-ラーニングを用いて、一人ひとりのレベルに合った学習を行う。
- ・「文法」「精読」は、講義と課題の繰り返しを通して、段階的学習を行う。
- ・コース専門科目では、1、2 年次に講義形式で両コースの基礎知識を身につけ、3、4 年次にどちらか一方のコースに所属し専門性を高める。演習形式で各自問題設定し、論文をまとめあげるにより問題解決能力を身につける。

4. 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・DP5:English Department Standard (Grammar Test, Writing Test, TOEIC listening score, 多読 words read)の達成。英語力を高めることができる。実力をはかる目安として毎年「カレッジ TOEIC」を実施し、所定のスコアを満たした者には単位を認定する。
- ・DP 6 : 専門知識、DP7: 思考力、分析力については、基礎ゼミおよび卒業研究で評価する。
- ・基礎ゼミの評価は、ルーブリックに基づいて行う。
- ・卒業研究の評価は、卒業論文と口頭試問においてルーブリックに基づいて行う。

【人間文化学科】

人間文化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系的性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目を MGU スタンダード科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶1 年次にほぼすべての基礎科目と入門演習を配置する。
 - ▶2 年次以降に歴史文化コースと国際文化コースの専門教育科目と演習科目(入門演習以外)を配置する。
 - ▶2 年次以降にセミナー科目や個別研修を配置する。
 - ▶4 年間の学びの集大成としての卒業研究を配置する。
 - ▶教育職員免許中学校社会 1 種・高校地理歴史 1 種・高校公民 1 種取得に必要な科目を開設する。
 - ▶学芸員資格取得に必要な科目を開設する。
 - ▶全学年を対象とする学外実習科目(国内・海外)を設置する。

2. 教育内容

- ・MGU スタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・基礎科目は人文科学分野と社会科学分野の各領域の基礎を学ぶ。
- ・専門科目は、歴史文化コースと国際文化コースの各領域につき、その概要を理解する。
- ・特論は、歴史文化コースと国際文化コースの諸領域を発展的、横断的に学ぶ。
- ・セミナー科目は、人間文化の各コース、各領域に関する特定の文化やトピック、語学などを深く学ぶ。
- ・演習科目は、卒業論文作成に向けて、人間文化の各コース、各領域の資料と文献、技術と方法、卒業論文について学ぶ。
- ・キャリア科目は、女性のキャリアについて学ぶ。

3. 教育・学習方法

- ・MGU スタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を追体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・基礎科目、専門科目、特論などでは、主に講義形式で授業を行う。
- ・演習科目とセミナー科目では、少人数の演習形式で授業を行う。
- ・卒業論文は、個人指導と演習形式の授業を結びつけて作成指導を行う。
- ・実習科目は、学内での準備学習を踏まえ、国内外の実習先において、現地の文化や言語、作品や資料を直接または実物で学び、終了後に総括を行う。
- ・個別研修では、学生が自主的に資格・検定試験を受験、あるいは学外の学習プログ

ラムに参加する。

4. 学修成果の評価

各科目の評価はシラバス記載の基準と方法、または授業で示すルーブリックに従って行う。

- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・卒業論文の評価は、演習で示すルーブリックによって評価する。
- ・複合的考察力については、演習科目および卒業研究においてルーブリックによって評価する。
- ・思考力・表現力・コミュニケーション力については演習科目の中でルーブリックによって評価する。

【心理行動科学科】

心理行動科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系的性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

- ・一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。
- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目を MGU スタンダード科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶セミナー、専門関連科目、専門基幹科目、専門発展科目、キャリア科目、公認心理師に関する科目、およびその他の専門科目にわたり、基礎から発展および応用まで、幅広く授業科目を配置する。
 - ▶4年間の学びの集大成としての卒業研究を配置する。
 - ▶日本心理学会の認定心理士資格取得に必要な科目を配置する。
 - ▶教育職員免許高校公民1種取得に必要な科目を配置する。
 - ▶国家資格公認心理師受験資格取得に必要な科目を配置する。

2. 教育内容

- ・MGU スタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・学年の進行に伴い、心理学の基礎的な内容から、深い専門性と幅広い関連領域へと教育内容を発展させる。
- ・事象を科学的に捉え、客観的にまとめるスキルを習得する科目を各学年に配置する。
- ・心理学を体験的に学ぶための実験実習科目、学習成果を日常生活や社会活動に関連づけるための実践的科目を配置する。
- ・批判的思考、ディスカッション、適切な表現の能力を獲得するために、少人数のセミナーを1年次から4年次まで全学年に配置する。

3. 教育・学習方法

- ・MGUスタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・各学年にセミナーを開設し、少人数による指導を行う。
- ・3年生から専攻のセミナーに配属し、指導教員によるきめ細かい指導を行う。
主体的に問題解決に取り組む能力を育むため、各授業においてアクティブラーニングを実践する。

4. 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・心理学に関わる知識・技能・態度については、概論科目および心理学実験実習、心理学研究法等の単位取得に加えて心理学検定2級以上の取得（心理学実践研修A）をもって評価する。
- ・事象を科学的にとらえる力、思考力・表現力・コミュニケーション力、実践課題に取り組む、解決を目指す力については、セミナー科目や実践研修B（学科イベントへの参加等）の取り組みについて、ルーブリックに基づいて評価する。
- ・セミナーの評価は、学科共通の評価基準にそれぞれの研究領域の基準を組み合わせたルーブリックに基づいて行う。

【音楽科】

音楽科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、次のようにカリキュラムを編成する。教育課程の体系性と構造は、カリキュラム・ツリーで示す。

1. 教育課程の編成

- ・一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。
- ・一般教育科目は、次のように編成する。
 - ▶本学で学ぶ基礎となる科目をMGUスタンダード科目として配置する。
 - ▶学年進行に従ってリベラルアーツ基幹科目・キャリア科目・外国語科目・体育科目を配置する。
- ・専門教育科目は、次のように編成する。
 - ▶学科共通の基盤科目を配置する。
 - ▶学科共通の応用実践科目を配置する。
 - ▶器楽コース、声楽コース、作曲コースの三つのコースを設置し、それぞれの専門性に応じた専門科目を配置する。
 - ▶キャリア形成科目を配置する。
 - ▶4年間の学びの集大成としての卒業研究を配置する。
 - ▶教育職員免許中学校音楽1種・高校音楽1種取得に必要な科目を開講する。

2. 教育内容

- ・MGUスタンダード科目では、専門分野を探究する際の基礎スキルを習得するとともに、本学独自の教養としてキリスト教学や音楽を学び、それらに加えて女性としての生き方を問い将来の方向性を考える。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、幅広い知識と視点、論理的思考とコミュニケーションを学び、異なる背景・分野を持つ人同士の協働による問題解決を促進する。
- ・キャリア科目では男女共同参画社会で自ら主体的に活躍するための基盤となる知識と考え方を学ぶ。
- ・基盤科目では基礎的なソルフェージュ・音楽理論を学ぶ。
- ・応用実践科目ではそれぞれの関心に応じて、音楽の理論や実践について幅広く学ぶ。
- ・各コースの専門科目では、それぞれのコースに応じた演奏技術・作曲技術を学ぶ。
- ・キャリア形成科目においては、指導法やその実践について学ぶ。

3. 教育・学習方法

- ・MGUスタンダード科目では、幅広い分野の講義と演習を学科横断的に実施する。
- ・リベラルアーツ基幹科目では、自分の専門と異なる分野の基礎知識を講義によって学び、ひとつのテーマについて複数の分野から多面的に見る機会を持ち、異分野の研究手法を体験する。
- ・キャリアに関する理論的・実践的背景を学び、さまざまな分野で活躍する女性のロールモデルを知り、自らの将来像を主体的に創造する構想力を養う。
- ・基盤科目では、講義と実技を組み合わせ音楽に関する専門知識と基礎能力を体系的に身につける。
- ・応用実践科目では、音楽の理論や実践についてのさまざまな学びを通じて、応用力を身につける。
- ・専門実技の授業では、一貫した個人授業形態の学習によって演奏・作曲の技術や表現力を細部まで磨く。
- ・「オーケストラ」「室内楽」「アンサンブル演習」では、アンサンブル学習によって音楽実践の上での協調性を確実に身につける。
- ・キャリア形成科目においては、実践的な活動を通して、実社会のニーズに柔軟に対応できるよう応用力を強化する。

4. 学修成果の評価

各科目の評価は、シラバス記載の基準と方法に従って行う。

- ・「自己受容」については、キリスト教科目の授業を通しての変化を、授業中のリフレクションを通してルーブリックによって評価する。
- ・「共生」については、「リベラルアーツスタディーズ」におけるグループレポートに対してルーブリックによって評価する。
- ・「女性のキャリア」についてはキャリア科目のシラバスの記載の基準と方法に従って行う。
- ・「リベラルアーツ」については卒業研究に対してルーブリックによって評価する。
- ・卒業研究の評価は卒業演奏ないし卒業作品において表現力、基礎技術の習熟度、音楽理論・様式の理解度を卒業研究評価ルーブリックに基づいて行う。
- ・表現者・作曲者・編曲者としての創造性についての評価は、キャリア形成科目において科目ごとの基本事項の理解度と発表時の表現力を授業評価ルーブリックに基づいて行う。
- ・指導力・応用力・コミュニケーション力についての評価は、アンサンブル学習（「オーケストラ」「室内楽」「アンサンブル演習」）、応用実践科目、キャリア形成科目において科目ごとの基本事項の理解度と発表時の表現力を授業評価ルーブリックに基づいて行う。
- ・課題を仕上げる力の評価は、各コースの専門科目において目標設定の的確さ、計画立案能力、実行力と修正能力、最終的な課題達成度を授業評価ルーブリックに基づいて行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：宮城学院女子大学ホームページ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針））

<https://www.mgu.ac.jp/about/policy/admissionpolicy/>)

（概要）

【学芸学部】

学芸学部では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・人間の言語や心理、文化や芸術に関して、興味や関心、学習意欲を持っている。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・身につけた専門性を活かして社会の発展や文化の向上に寄与し、社会生活をとおして、生涯にわたり知識や経験を積み上げて自己研鑽を行うことを希望している。

【日本文学科】

日本文学科では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。
- ・現代まで受け継がれてきた日本のことばと文化、特に伝統的な言語文化について、基礎的な知識と読解力を有している。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・「国語」に関心がある。読書を好み、文章を書くことに興味がある。適切で的確な日本語運用能力を身につける意欲がある。
- ・日本語や文学・演劇・映画等、日本のことばと文化に興味を持ち、これらに関する専門的で体系的な知識を修得する意欲がある。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・国語科教員・日本語教師・記者・編集者・司書・学芸員等、日本のことばと文化に関する専門性を活かした職業に就き、社会の発展と文化の向上に貢献する意欲がある。

【英文学科】

英文学科では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につ

けている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・英語に対する強い関心と興味を持ち、英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲があり、英語運用能力を高めたいと考えている。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・英語学や英米文学・文化を専門的に学ぶことにより、国際社会で必要とされる客観的かつ複眼的な視点を身につけたいと考えている。
- ・自分の考えを英語で発信しながら自分と異なる価値観を持つ人と積極的に交流し、日本と外国との架け橋になることを目指している。

【人間文化学科】

人間文化学科では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・日本、またはアジア、ヨーロッパの過去、または現在の文化、社会などを学ぶことに強い意欲を持つ。
- ・国際舞台で活躍したり、教員や学芸員といった専門職に必要な知識・技能等を獲得する学びに積極的に取り組む意欲を持つ。

3. 目的意識

- ・本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・問題を発見し解決する能力、情報発信力、コミュニケーション能力を身につけることを強く希望する。

【心理行動科学科】

心理行動科学科では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。
- ・文章を読み解くことおよびデータを読み取ることについて、基本的な能力を持っている。

2. 意欲

- ・人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を持っている。
- ・人間の心や行動に関心を持ち、それらを客観的に考える力、的確に表現する力を獲得する意欲がある。

3. 目的意識

- ・ 本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・ 女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・ 実証と実践に重点を置いて心理学を学び、自ら積極的に知識や経験を積み上げようとする目的意識を持っている。

【音楽科】

音楽科では、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れる。

1. 能力

- ・ 「国語」、「英語」またはそれに準ずる科目・分野において、基礎的な読解力と表現力を身につけている。
- ・ 世の中の出来事について、情報を収集し、考察し、説明する基礎的な能力を身につけている。
- ・ 演奏や作曲の技能向上に向けて、継続的な練習に取り組むことができる。

2. 意欲

- ・ 人間および人間集団の多様性を理解しており、共生の在り方を模索する意欲を持っている。
- ・ 音楽の実践的・理論的基礎の習得に、体系的に取り組む意欲を持っている。

3. 目的意識

- ・ 本学の教育方針を理解しており、本学でキャリア形成を含む自己実現を目指すことを強く希望している。
- ・ 女性の生き方に対する強い関心と問題意識を持っている。
- ・ 学びの中で得た知識や技術、社会性を活かせる仕事に就きたいと考えている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：公表方法：宮城学院女子大学ホームページ 情報公開 修学上の情報 教員組織

<https://www.mgu.ac.jp/about/disclosure/soshikizu/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
現代ビジネス学部	—	7人	6人	0人	0人	0人	13人
教育学部	—	19人	12人	0人	2人	0人	33人
生活科学部	—	12人	3人	0人	3人	0人	18人
学芸学部	—	28人	12人	0人	2人	0人	42人
教養部（一般教育）	—	1人	人	人	人	人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			384人				394人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：宮城学院女子大学ホームページ 教員一覧 https://www.mgu.ac.jp/research/teaching_staff/dept_list/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代ビジネス 学科	95人	115人	1.2%	380人	414人	108.9%	人	5人
教育学部	190人	162人	0.9%	720人	660人	91.6%	人	0人
生活科学部	160人	136人	0.9%	640人	604人	94.3%	人	0人
学芸学部	305人	330人	1.1%	1,260人	1,185人	94.0%	人	0人
合計	750人	743人	0.99%	3,000人	2,863人	95.4%	人	5人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
現代ビジネス 学部	101人 (100%)	1人 (1.0%)	94人 (93.1%)	6人 (5.9%)
教育学部	198人 (100%)	0人 (0.0%)	189人 (95.5%)	9人 (4.5%)
生活科学部	155人 (100%)	3人 (1.9%)	140人 (90.3%)	12人 (7.7%)

学芸学部	281人 (100%)	6人 (2.1%)	205人 (89.0%)	25人 (8.9%)
合計	735人 (100%)	10人 (1.4%)	673人 (91.6%)	85人 (7.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 毎年、授業概要、到達目標、授業計画、評価方法・基準、準備学習等の記載事項や新規変更点について、留意点や記載例を掲載したシラバス作成要領を作成し、全教員に配布している。更に全教員を対象としシラバス作成についてのFD研修を実施している。各教員が作成したシラバスは教務センター担当教員や資格課程委員会の確認修正作業を経て、ウェブで公表している。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各学生の学修成果をシラバス記載の成績評価方法に基づき、試験結果、平常点等を加味し、各教員が評価する。また、教員の評価が適切であることを学修支援システムを通して確認できるように、システム運用を行っている。 卒業認定・学位授与方針は、学部学科別に定め、ウェブで公表している。認定は、ディプロマ・ポリシーに沿って定める履修方法に従って卒業単位124単位以上が修得されているかどうかを各学科で判定した後、教務部委員会での審議及び判定、教授会の議を経て学長が決定する。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	124単位	有・無	単位
教育学部	教育学科	124単位	有・無	単位
学芸学部	日本文学科	124単位	有・無	単位
	英語コミュニケーション学科	124単位	有・無	単位

	英文学科	124 単位	有・無	単位
	人間文化学科	124 単位	有・無	単位
	心理行動科学科	124 単位	有・無	単位
	音楽科	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : 宮城学院女子大学ホームページ キャンパスマップ
<https://www.mgu.as.jp/campuslife/campusmap/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科 (1年)	780,000円	240,000円	272,480円	授業料、入学金以外に徴収する費用 施設設備資金、グループ研修費、循環器等検査費、演奏実技運営費、実習費、楽器使用料、大学後援会費、学友会費、学会費、学生災害掛金
	現代ビジネス学科 (2年)	757,000円		268,860円	
	現代ビジネス学科 (3年)	757,000円		268,860円	
	現代ビジネス学科 (4年)	757,000円		269,400円	
教育学部	教育学科 幼児教育専攻 (1年)	808,000円	240,000円	275,520円	
	教育学科 幼児教育専攻 (2年)	808,000円		250,860円	
	教育学科 幼児教育専攻 (3年)	808,000円		250,860円	
	教育学科 幼児教育専攻 (4年)	808,000円		251,400円	
	教育学科 児童教育専攻 (1年)	808,000円	240,000円	257,480円	
	教育学科 児童教育専攻 (2年)	808,000円		250,860円	
	教育学科 児童教育専攻 (3年)	808,000円		250,860円	
	教育学科 児童教育専攻 (4年)	808,000円		251,400円	
	教育学科 健康教育専攻 (1年)	808,000円	240,000円	264,520円	
	教育学科 健康教育専攻 (2年)	808,000円		250,860円	

	教育学科 健康教育 専攻 (3 年)	808,000 円		250,860 円
	教育学科 健康教育 専攻 (4 年)	808,000 円		251,400 円
生活科学 部	食品栄養 学科 (1 年)	892,000 円	240,000 円	262,250 円
	食品栄養 学科 (2 年)	892,000 円		266,120 円
	食品栄養 学科 (3 年)	892,000 円		255,560 円
	食品栄養 学科 (4 年)	892,000 円		256,100 円
	生活文化 デザイン 学科 (1 年)	853,000 円	240,000 円	263,980 円
	生活文化 デザイン 学科 (2 年)	853,000 円		258,860 円
	生活文化 デザイン 学科 (3 年)	853,000 円		258,860 円
	生活文化 デザイン 学科 (4 年)	853,000 円		259,400 円
	学芸学部	日本文学 科 (1 年)	780,000 円	240,000 円
日本文学 科 (2 年)		713,000 円		252,360 円
日本文学 科 (3 年)		713,000 円		252,360 円
日本文学 科 (4 年)		713,000 円		252,900 円
英語文化 コミュニ ケーション 学科 (1 年)		780,000 円	240,000 円	281,480 円
英文学科 (2 年)		713,000 円		263,860 円
英文学科 (3 年)		713,000 円		263,860 円
英文学科 (4 年)		713,000 円		264,400 円
人間文化		780,000 円	240,000 円	266,980 円

学科 (1年)			
人間文化学科 (2年)	713,000 円		251,360 円
人間文化学科 (3年)	713,000 円		251,360 円
人間文化学科 (4年)	713,000 円		251,900 円
心理行動科学科 (1年)	780,000 円	240,000 円	293,480 円
心理行動科学科 (2年)	757,000 円		271,860 円
心理行動科学科 (3年)	757,000 円		271,860 円
心理行動科学科 (4年)	757,000 円		272,400 円
音楽科 (1年)	1,004,000 円	240,000 円	702,980 円
音楽科 (2年)	1,004,000 円		672,360 円
音楽科 (3年)	1,004,000 円		667,360 円
音楽科 (4年)	1,004,000 円		667,900 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、勉学に意欲をもちながらも家庭の経済的理由により修学が困難な学生に対して、学資を給付することにより経済的な負担を軽減し、安心して学生生活を送れるよう支援するため、本学独自の制度に加え、同窓会による給付型奨学金制度を設けている。このほか、宮城学院学業特待奨学金や授業料減免制度、さらに学内で働きながら学費負担の軽減を図る「学内ワークスタディ制度」も整えている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ①全学生を対象として、年間8回の「キャリアアップセミナー」を実施した。卒業生を含む多様な分野で活躍する女性を講師として招き、様々な生き方やキャリア形成について学ぶ機会を提供した。参加学生からは、将来の進路や働き方を具体的に考えるきっかけとなったとの声が寄せられた。 ②3年生及び大学院1年生を対象に「進路ガイダンス」を実施した。主に夏期インターンシップへの参加準備を中心として、採用活動の早期化を踏まえた就職活動の進め方や情報収集の方法等について支援を行った。 ③キャリア相談については、平均して1日5枠、週50枠程度を設け、学生一人ひとりの状況に応じた個別支援を実施した。4年生の就職活動支援に加え、1～3年生を対象とした進路相談やキャリア形成支援にも積極的に取り組んだ。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

宮城学院女子大学は、学生が安心して学べるよう心身の健康を支える相談体制を整えている。学生相談室では、専門カウンセラーが学業・人間関係・進路など幅広い悩みに対応し、問題解決と一緒に考えている。特別支援室では、障害や病気などにより配慮を必要とする学生に対し、合理的配慮の調整や学習環境の整備を行っている。さらに、月1回の「性とアイデンティティ相談」では、性に関する悩みや自己理解に関する相談にも応じ、学生一人ひとりが安心して大学生活を送れるよう支援している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：宮城学院女子大学ホームページ 情報公開

<https://www.mgu.ac.jp/about/disclosure/>